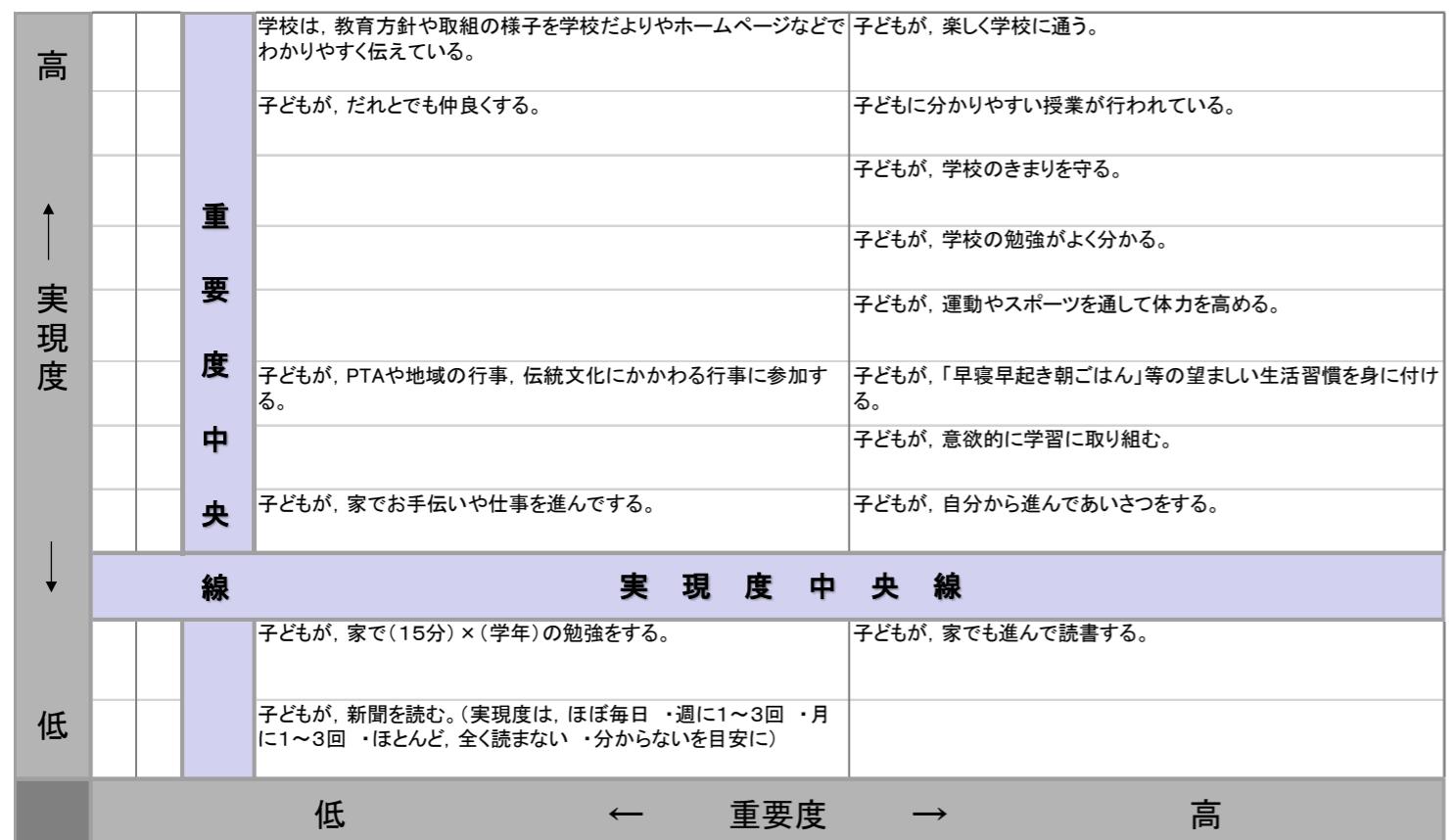


令和2年度前期
学校評価アンケートの結果より

冬の訪れを感じる頃となりました。皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。平素は本校教育にご理解ご協力いただきありがとうございます。「前期学校評価アンケート」の結果についてお知らせいたします。

【保護者重要度と実現度の分布結果について】



「重要度」については、毎回の調査で15項目すべて中央より右側に集まり、どの項目についても、保護者は「重要な」と考えています。また、それらがどれくらい実現されているかを示すのが「実現度」で、これは図の上側に行くほど実現できていることを示します。これら「重要度」と「実現度」とを関連付けて、それぞれの項目がどのような分布になったのかを示すのが上の図です。今回、最も重要でしかも実現できている（右上）に8項目、やや重要で実現できている項目に4項目が入るという結果となりました。

この結果から保護者から見た子どもたちは、毎日楽しく学校に通っている、大体学校の決まりを守って友だちと仲良く過ごせていると感じてもらえているようです。また運動やスポーツを通して体力を高め、学校での授業も分かりやすく行われているので、子どもたちが学校の勉強を分かっていると感じてもらえているようです。このことは学校としても大変うれしいことです。

一方、重要であるにもかかわらず、あまり実現できていない項目が3項目ありました。それは、家庭学習に関する「家で15分×学年の勉強をする」と、「家でも進んで読書をする」、「新聞を読む」の3項目です。「家で進

んで読書をする」についてはとても重要だと思っているが、現実としては読めていないようです。去年度から「新聞を読む」という項目を入れていますが、実現度は大変低いです。学年が上がるにつれていろいろな情報を得たり、また学習で活用したりするために必要だと感じている保護者は多くなると思いますので、学年によって重要度も違ってきますが、重要と感じている保護者は多いことが分かります。「家で（15分）×（学年）の勉強をする」についても、重要だけれどなかなか家庭で落ち着いて学習が進められていないようです。

今回、前回よりも実現度が12%も下がった項目に「意欲的に学習に取り組む」があります。教職員は意欲的に学習に取り組めていると見ていますが、分かりやすい授業が行われていて、学校の勉強がよく分かっているけれど、保護者から見ると意欲的とはいえない現状があるようです。

令和2年度前期学校評価（実現度）結果



【項目ごとの実現度の結果について】

今回のアンケート項目は、15項目（児童は14項目）で実施しました。保護者、教職員、児童それぞれの評価結果を上に示しました。また、右下のグラフは、各項目の「よく出来ている」と「大体出来ている」という肯定的な回答を合わせたパーセントをそれぞれに色を変えて重ね、比較しました。よく出来ていること、逆にあまり出来ていないことの感じ方の度合いについては多少違いがあるものもありますが、よく似た傾向が見られるものが多いです。

結果から、例年「楽しく学校に通う」「だれとでも仲良くする」「決まりを守る」「授業がよくわかり、勉強もわかる」「運動やスポーツで体力を高める」の項目の評価が高いです。このことから八瀬小学校の子どもたちは、毎日とても充実した学校生活を送っていると子どもたちも保護者も思っている様子がうかがえます。教職員も同じように感じています。こうした結果が毎年続いていることが、八瀬小学校の良さであり、大変すばらしいところだと思います。また、例年3者（保護者・児童・教職員）の評価が大変高い「PTAや地域の行事に参加する」という項目については、今年はコロナ禍でPTA行事も地域の行事もほとんど自粛で無くなり、評価が低くなりました。子どもたちを中心とした保護者や地域の皆さんのつながりは親密なので、今後また八瀬の素晴らしい地域性を生かして、活気のある活動が再開できると思います。

一方で実現度が中央線よりも下に位置した項目は「家でも進んで読書する」、「家で15分×学年の勉強をする」、「新聞を読む」という3項目です。学校では意欲的に学習しているけれど、家では学年に必要な時間の学習ができるいないようです。精々、宿題をするだけになってしまっているのかもしれません。中には放課後に放課後まなび教室や2階の情報コーナーでその宿題まで済ませてしまうと、家ではもう何も勉強をしないという児童もいるように聞いています。意欲的に学習するというこの「意欲」をどのように見ていくのかが、これから考えていかなければならぬ課題になりそうです。

今年度は4月から2ヶ月間臨時休業が続き、毎日の家庭学習のための学習プリントや家庭学習のための資料を学校（担任）から配布しました。ほとんどの子どもたちは、与えられた最低限の学習には取り組み、成果物を提出していましたが、やり残しがある人から、自分で考えて自主的な学習をした人まで大きな差がありました。今後、また臨時休業になって家庭学習を余儀なくされた時、そのような状況にならなかったとしても、学習したことや分かったことを家で復習をしたり、自学自習に取り組んだりして家庭学習を習慣化していくことは、ますます重要になります。こうしたことから学校では、宿題の出し方を工夫したり、自学自習のヒントになるような学習例を学年に応じて紹介したりしていきたいと思います。現在学校ではぐんぐんタイムなどに、一人1台のパソコンを使って、「タブレットドリル」というドリルを活用した自学自習に取り組んでいます。これは、家でもID、パスワードを入力したら続きができます。こうしたICTを活用した学習にもさらに取り組んでいきます。また、読書については、保護者の重要度は増しているので、学校では国語の教材を学習していくと同時に並行読書を取り組んだり、朝読書の時間の確保と本選びを重視したりしていきます。家庭での学習や読書については、家庭（保護者）の協力が不可欠です。学校と家庭とで連携しながら取り組んでいきたいと思います。

その他、児童の評価と保護者の評価に差が見られたものに、「家でお手伝いや仕事を進んでする」、「自分から進んであいさつをする」という項目がありました。「自分から進んであいさつする」については保護者と児童で約25%の差があり、教職員はさらに低い評価をしています。コロナ禍で大きな声を出さない、マスクを着用するなどの影響もあると思われますが、低学年については元気な声であいさつできています。高学年になるにつれて声が小さくなりがちです。子どもたちはマスクの中でちゃんとあいさつをしていると思っているのでしょうか、大人（先生やお家の人たち）には、声も聞こえず、目も合わないあいさつでは届いていないのだと思います。どうしてあいさつが大切なのか、良いあいさつとはどんなあいさつのか、子どもたちに教え続ける必要があるそうです。マスク越しからこそ、お互いに顔を見合い、目を合わせ、笑顔が伝わるような心かようさわやかなあいさつを心がけていきたいと思います。登下校時に地域の方々が声をかけてくださることも多いので、誰に会っても明るくあいさつができる八瀬の子にしていきたいと思います。

「家でお手伝いや仕事を進んでする」については、「できている」と答えていた児童は約70%で、保護者は約55%でした。子どもたちはお家の人に言われたことはしているのでできている、保護者から見れば「進んでする」姿を期待しているからできていない、という違いから評価に差があるのかもしれません。保護者の重要

度は高いのですから、今後家庭で話し合って、家の仕事やお手伝いの分担や方法を具体的に決めていってはどうでしょう。「〇〇してくれて助かる。」「〇〇してくれてうれしい。」というように、頑張りや感謝を言葉に表し、子どもたちに自分も家族の一員として役割を果たす大切さや家族の役に立つ喜びを感じられるように工夫していくことを大事にしていけたらと思います。

【学校運営協議会の皆さんから】

- ・コロナウイルス感染症拡大防止のため、今年度は学校行事が開催されるのか心配していたが、感染対策を考えたうえで、運動会や学芸会を工夫して行われたということを聞いて、子どもたちの成長のためにも大変良かった。朝の登校時の見守りや近所での子どもたちの会話から、運動会や学芸会に向けて楽しく取り組んでいる様子が伝わってきて、こうした行事が子どもたちの活動意欲を高め、友だちみんなで協力する大切さを学ぶ良い機会であると感じた。今後、まだまだ感染対策等を続けていかなければならないと思われるが、子どもたちの健やかな成長と体力向上のためにご尽力いただきたい。
- ・登下校で子どもたちから挨拶をしてくることは少ないが、大人から声をかけると、きちんと挨拶をかえしてくれている。顔見知りになっている人には、子どもたちの方から声をかけてくれる。どんどん大人の方から声をかけて、お互い顔見知りになら自然とあいさつができるようになるのではないかと思う。
- ・朝の子どもたちの様子を見ていると、疲れているのか元気がないように思うことがある。最近の子どもたちは忙しい生活を送っているように感じる。ただ、夜遅くまでゲームをしていたり、反対に朝早くから起きてゲームをしたりしているということも聞く。家庭での過ごし方を見直すことも必要である。
- ・「家庭学習」・「読書」・「新聞を読む」については、毎回課題になっているが、どうしたら子どもが自ら学びたい、知りたいと意欲を高められるのか。子ども一人一人の興味のあることはみんな違うので、自分で調べて新しい知識を獲得する姿を期待したい。興味のあることなら進んで調べるだろうし、そこから学習が広がり、読書や新聞を読むことにつながっていくのではないか。子どもたちの持っている個性や才能など隠れた力を見つけて、伸ばしていってほしい。